

企画セッション
「凍結防止剤散布の最適化と副次的影響」

9月28日（火）14:00-16:00
東京エレクトロンホール宮城 会議室 602（B会場）

主催：日本雪工学会 道路研究委員会

趣 旨

冬期道路の安全走行のために凍結防止剤散布は欠かすことは出来ません。ところが、使用されている凍結防止剤の大半が、塩化物系（塩化ナトリウム、塩化カルシウムなど）のため、種々の副次的影響があることが知られています。この副次的影響としては、一般に、①自動車や道路付属物の金属腐食、②コンクリート構造物の劣化、③沿道の植物の枯渇、④河川の塩分濃度の増加、などがあげられます。

散布量は、雪氷路面での交通安全対策として必要最小限（散布量の最適化）にする一方で、金属腐食対策、コンクリート構造物の樹脂塗装鉄筋や防水工の採用、沿道での飛散防止対策、など、各方面からのアプローチが必要です。

この企画セッションの議論（安全性と塩害）は、スパイクタイヤ規制時の議論（安全性と粉塵公害）と同様に、一筋縄ではいかない難しい問題を含んでいますが、産学官の関係者の英知を結集して、今後のあり方を考えたいと思います。

プログラム

1. 本企画セッションの趣旨説明
2. 話題提供（パネラー）
 - ・浅野 基樹（（独）土木研究所寒地土木研究所）
 - ・石本 敬志（（財）日本気象協会北海道支社）
 - ・東海林更二郎（（株）NIPPON）
 - ・福原 輝幸（福井大学）
 - ・堀井 雅史（日本大学）
3. 総合討論：凍結防止剤散布の最適化と副次的影響
コーディネーター 村國 誠（道路研究委員会 委員長）

敬称略（あいうえお順）